

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

- ①家庭・地域からの委員 (7名)
(地域コーディネーター3名含む)
- ②学校からの委員 (管理職2名)

(2) 協議会の内容 (年間 3回)

①開催日程

- 第1回協議会 (6月6日)
- 第2回協議会 (10月27日)
- 第3回協議会 (2月20日)

②協議内容

- ・本会の趣旨説明、活動方針と活動計画
- ・学校教育活動(スクールプラン等)について
- ・地域との連携、交流活動について(地域と進める体験推進事業)
- ・学校評価の報告と改善について

《 家庭・地域・学校協議会委員 》

- ・乾側をよくする会会長(地域コーディネーター)
- ・民生児童委員(地域コーディネーター)
- ・公民館長(地域コーディネーター)
- ・区長会会長
- ・雨乞い踊り保存会指導者
- ・PTA会長
- ・PTA副会長
- ・校長
- ・教頭

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

ふるさとに誇りをもち、心豊かでたくましく生きようとする子を育成する。

(2) 活動の実際

①活動1 米の結 1～6年生

本校では、乾側地区と歴史的に繋がりが深い京都市醍醐寺と、代表者訪問による餅米の奉納や醍醐寺による五大力餅の贈呈など、十数年前から交流が続いている。また、京都市立醍醐小学校にも交流は広がり、田植え交流集会や餅米贈呈などの活動も行っている。今年度は、醍醐小学校との交流10周年を記念し、【田植え交流集会】【ふれあい集会への招待】【醍醐のサクラ記念植樹】【醍醐寺へのタンチョウ餅米と雨乞い踊りの奉納】【醍醐小学校へのタンチョウ餅米贈呈】の行事を実施した。

【田植え交流集会】では、「協力して田植えを行い、秋の実りを願うとともに働く喜びや苦労を体験する」「醍醐小学校児童と田植えや乾側米を使った給食を通して、交流を深める」ことをねらい、京都市立醍醐小学校5年児童52名をお迎えして、田植え交流・交流給食(セルフおにぎり・豚汁・ぶどうゼリー)・交流10周年記念式(醍醐小記念プレゼン・交流10周年のあゆみ紹介・醍醐のサクラ目録贈呈)・児童会が内容を考えた交流会を行った。



【ふれあい集会】では、「お米や野菜の実り、お世話になっている人たちに感謝し、家庭・地域との連携・ふれあいを深める」「醍醐寺・醍醐小との交流に感謝し、記念植樹に真摯な気持ちで臨む」「乾側っ子がきびきびと活動する頼もしく成長した姿を参観していただく」を目指し、児童主体の活動を組み込んだ。



【醍醐寺へのタンチョウ餅米と雨乞い踊りの奉納】【醍醐小学校へのタンチョウ餅米贈呈】では、全校児童が醍醐寺・醍醐小学校を訪問して、学校田で収穫したタンチョウ餅米を、児童会中心に考えたメッセージとともに届けた。また、3・4年児童に5・6年児童の希望者も加わって事前練習し、雨乞い踊りを奉納した。

②活動2 祭の結 3～6年生



5・6年児童が、乾側地区夏祭りに「缶落王～あなたのおもいをぶつけてください～」 「わくわくひやひやヨーヨーつり」の2つを出店し、地域とタイアップして祭りを盛り上げた。出店に向け6月からコンセプトや方法を話し合って企画立案し、当日はどの児童も主体的に活動していた。3・4年児童は、尾永見地区に伝わる伝統芸能「雨乞い踊り」（篠笛や和太鼓を使った踊り）を、乾側地区夏祭りや市のふるさと学習交流会で披露した。さらに市文化祭では、保存会の方と一っしょに披露した。



③活動3 水の結 5～6年生

5・6年児童が、美しい乾側地区の自然を未来に残したいと考え、「自然☆ミライ」と題して環境学習に取り組んだ。前年度の学習をヒントに、まず自分たちで外来種について探究し、次に地域の農事組合法人アバンセ乾側や県土地改良事業団体連合会（水土里ネットふくい）の方々の協力や支援を得て、農業用排水路における生き物や水質を調査した。そして目的の一つである発信にも重点的に取り組み、調査・見聞したこと等をパンフレットや紙しばいにまとめ、再び講師を招いて発表した。意見や質問、詳しい説明等もいただき、さらに学習を深めることができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

家庭・地域・学校協議会において本事業の活動経過を報告するとともに、児童の地域への関り方等についてアドバイスをいただいた。また、活動を参観してもらい、渉外的な内容や具体的推進の方法等についてアドバイスをいただいた。

(4) 特に工夫した事項

- ・ 伝統を受け継ぐことを大切にしながらも、その方法等は前年度にとらわれることなく検討し、改善を加えるようにしたこと
- ・ 児童が主体的に取り組むよう、めあてや取り組みの流れを工夫したこと
- ・ ふるさと大野・乾側に対する愛着と誇りを育てる活動としたこと

(5) 成果と課題

米の結では、年間のさまざまな行事を通し、ふるさとを知って愛し、誇りにおもう心が育成できたと考える。特に、【醍醐寺へのタンチョウ餅米と雨乞い踊りの奉納】【醍醐小学校へのタンチョウ餅米贈呈】では、交流に感謝しながら、厳かな気持ちで餅米奉納・雨乞い踊り奉納に臨み、充実した時間を過ごせたことで、ふるさとを愛する心が深まった。

水の結の「自然☆ミライ」では、美しい乾側地区の自然を残したいという願いから始まったが、地域の昔の様子や他地区の取り組み等も知って、生き物好きを増やしたいという新たな願いも生まれ、次年度への課題を見つけることができた。

しかしながら、全児童数に対して何年間も継続して取り組んでいる行事が多く、既存の行事の内容検討で精一杯の状況である。また児童も学校や地域から与えられる課題に対応するばかりで、自主的に地域への課題意識を持つことが少ない。行事の軽重を考慮してゆとりを持たせたり、児童らの声を生かした内容をもっと取り入れたりして、主体的な活動になるようにしたい。